

報告事項ケ

平成19年度新体力テスト調査結果について

平成19年度新体力テスト調査結果について、別紙のとおり報告します。

平成20年5月20日

鳥取県教育委員会教育長 中 永 廣 樹

平成19年度新体力テスト調査結果について

体育保健課

1 調査の目的

新体力テストを実施することにより、児童生徒の体力（運動能力を含む）の現状を明らかにするとともに、学校体育の指導及び行政上の基礎資料とする。

2 調査対象及び人数

鳥取県内すべての公立小学校・公立中学校・県立高等学校（全日制）の児童生徒数の約10%にあたる人数を抽出した。

抽出数：7,852名（児童生徒数64,795名）

3 調査期間

平成19年5月～7月 調査

9月～12月 集計・分析

12月、2月 検討委員会（データの分析・考察、今後の対応策の検討）

4 調査項目

（1）体力テストの調査項目（8項目）

- ・握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ボール投げ

（2）生活習慣調査項目（7項目）

- ・運動部やスポーツクラブへの所属、運動の頻度（週回数、1日の時間）、朝食の有無、睡眠時間、テレビの視聴時間、パソコン・携帯の利用時間

5 調査結果の概要

別紙1～3のとおり

6 今後の対応策について

（1）本調査結果を学校体育、特に教科指導の充実・改善に活かしていく。

- ・児童生徒の体力の実態に応じた指導や体力向上に向けた系統的な指導の充実
- ・運動の楽しさを味わわせるとともに、「わかって、できる」学習の展開による運動習慣の形成

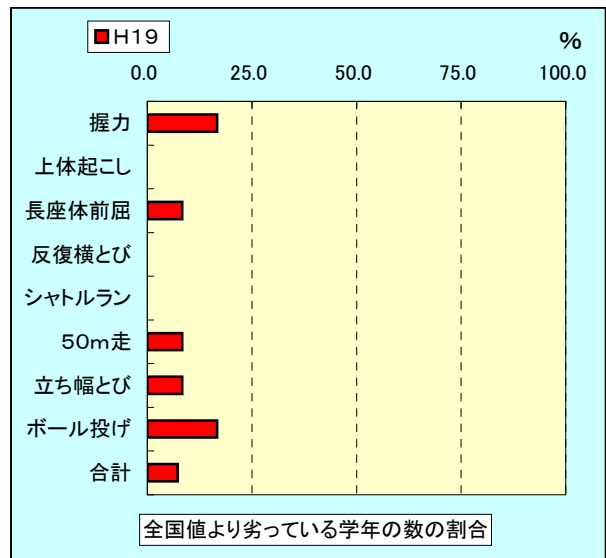
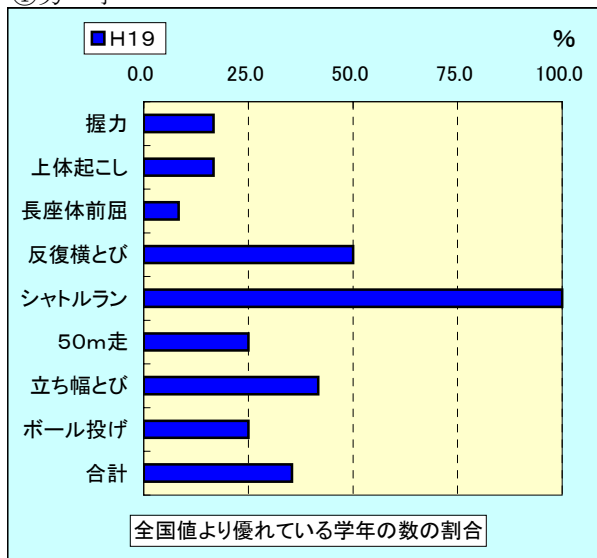
（2）本年度、文科省が実施する「全国体力、運動能力、生活習慣等調査」（資料）

の結果も踏まえながら、本県のより詳細な体力・運動能力の実態把握に努める。

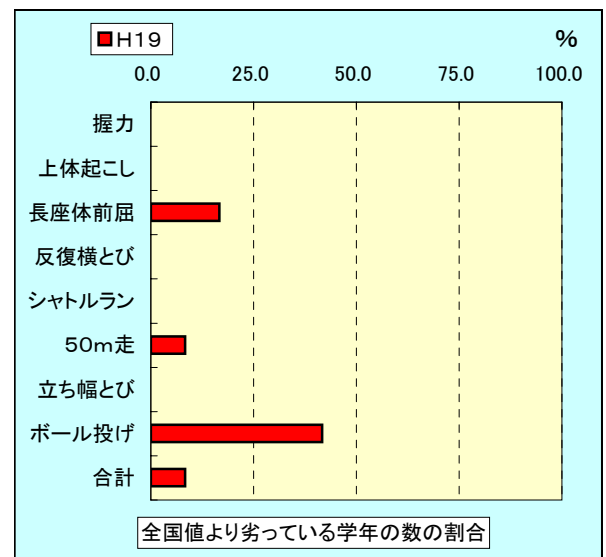
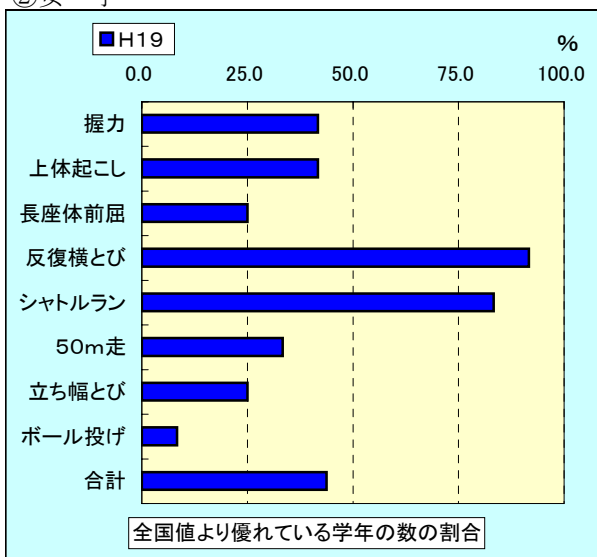
別紙1 Tスコアによる全国との比較（種目別に見た場合）

※全国値と比較して、各種目ごとの有意差が認められた学年の数の割合（小1～高3・全12）の割合

①男子



②女子

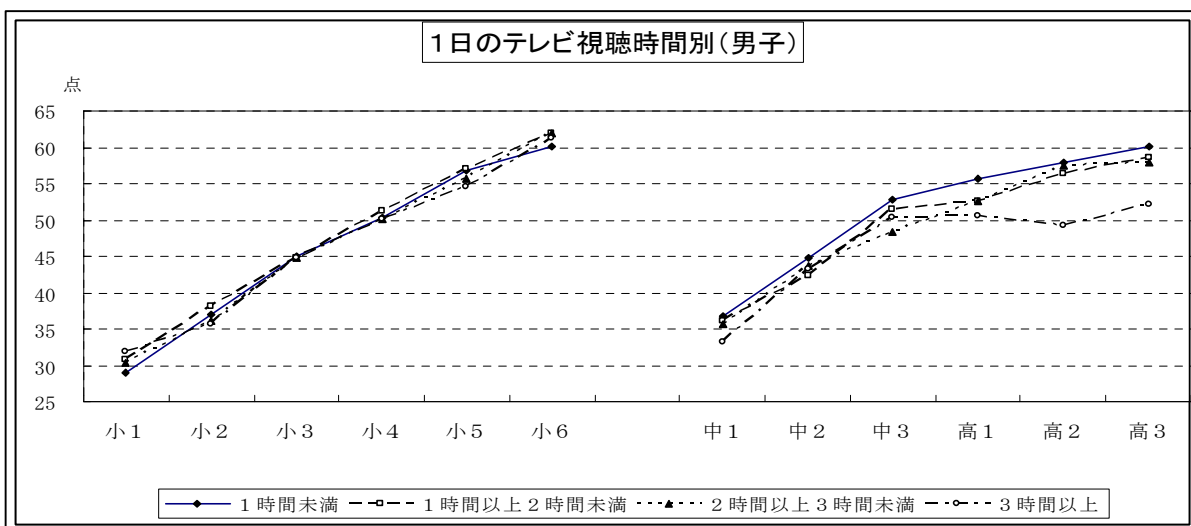
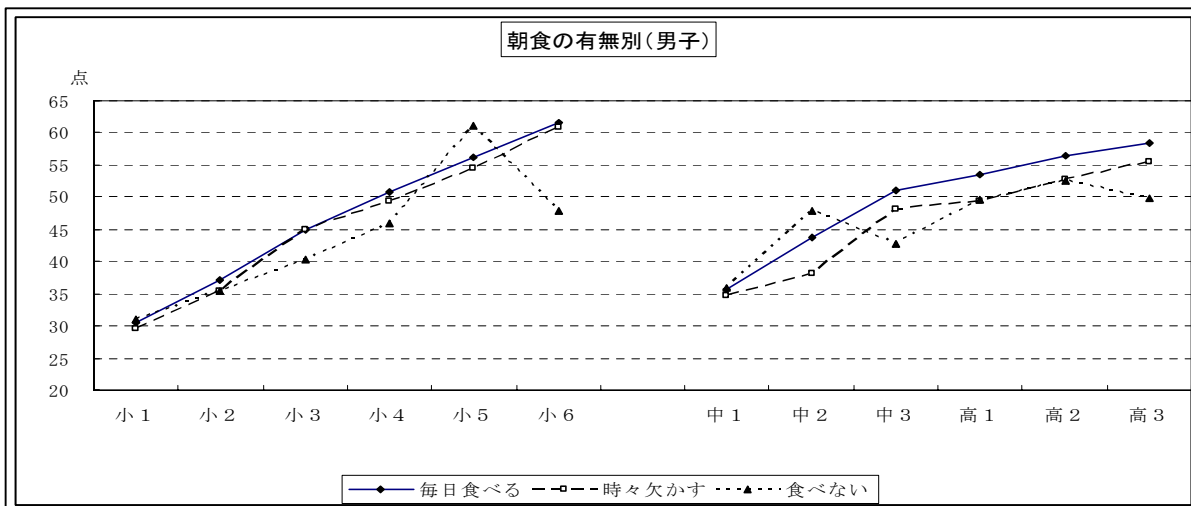
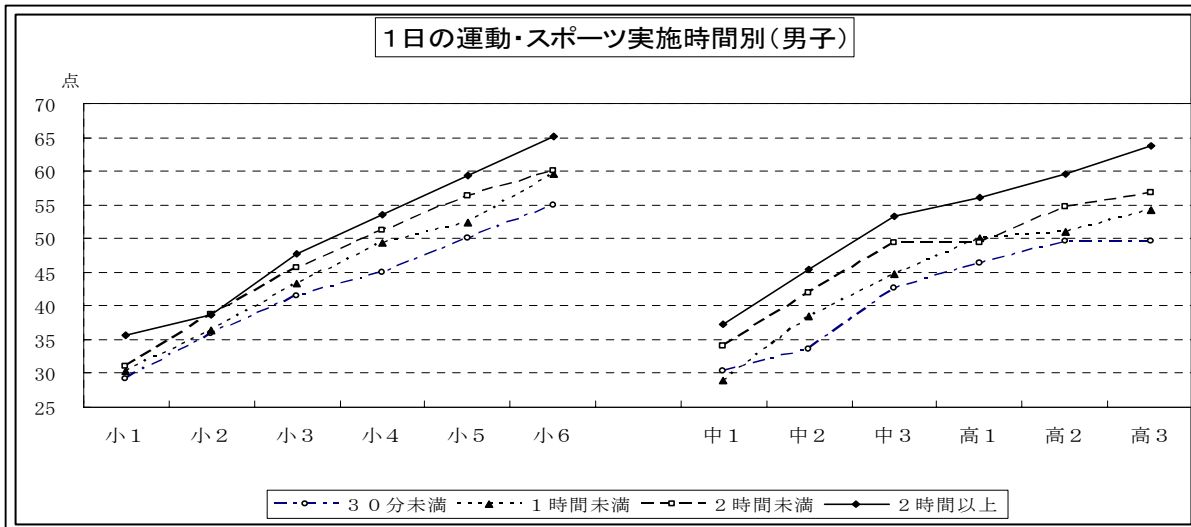


○体力運動能力の得点合計は、男女ともほぼ全国平均を上回っており、有意に上回っている学年も3割から4割と多く、おおむね優れていると言える。

○種目別に見ると反復横跳び(敏捷性)、シヤトルラン(全身持久力)は全国平均より有意に優れている学年が多く、特に、反復横跳びとシヤトルランについては有意に劣っている学年は無い。反対に、ボール投げ(投力)で全国平均を有意に下回っている学年が多く、依然として本県の課題である。

○有意差は認められないが、握力や50m走で平均を下回る学年が多く、本県の課題として取り組んでいくことが必要と考えられる。

別紙3 「生活習慣と体力・運動能力の関係」

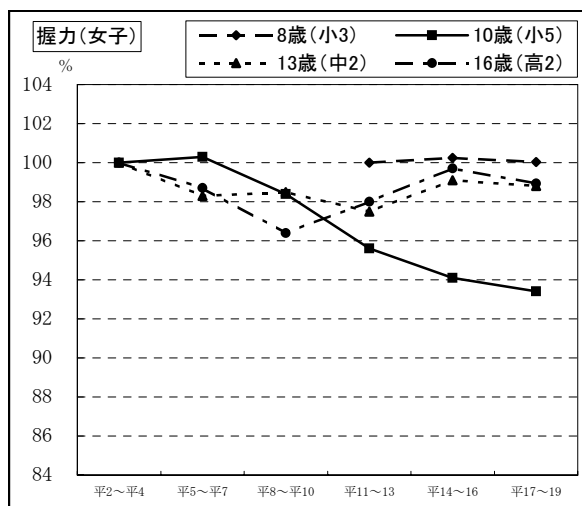
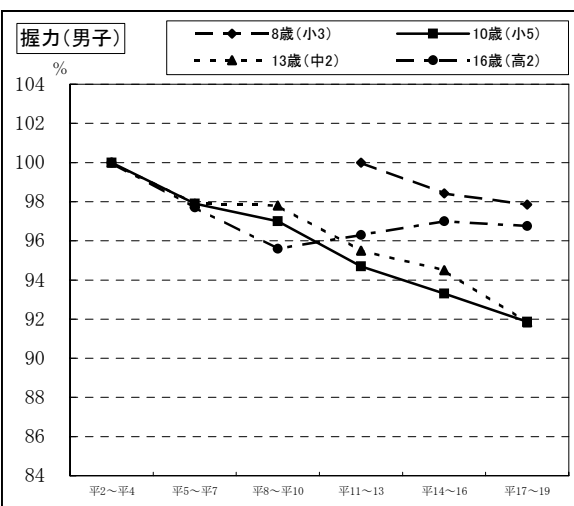
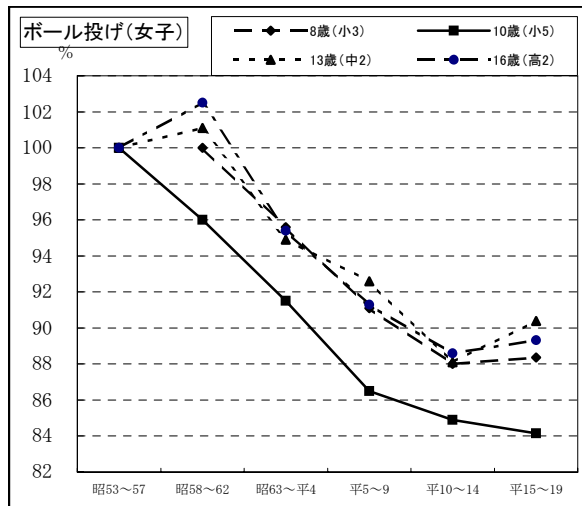
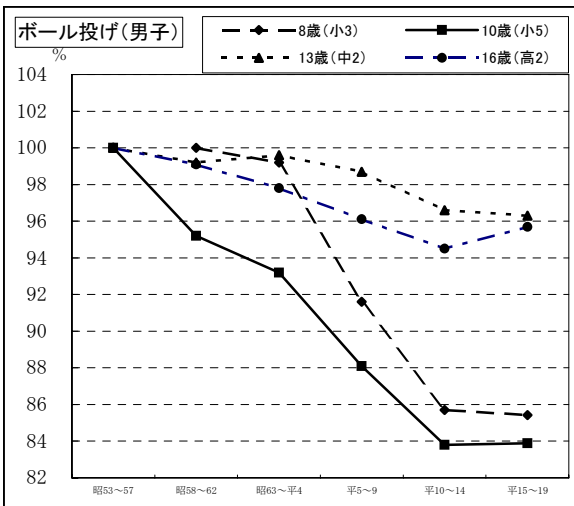
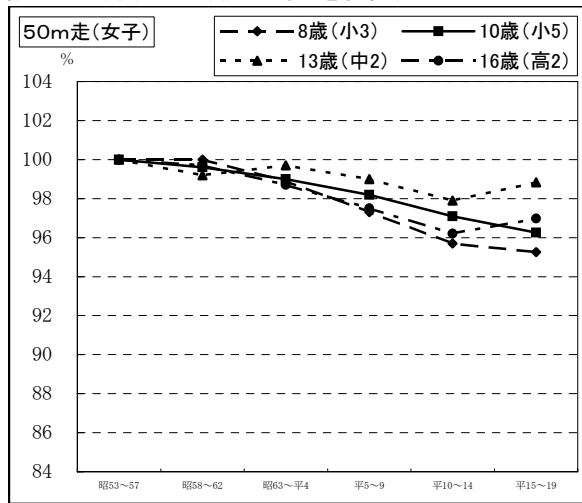
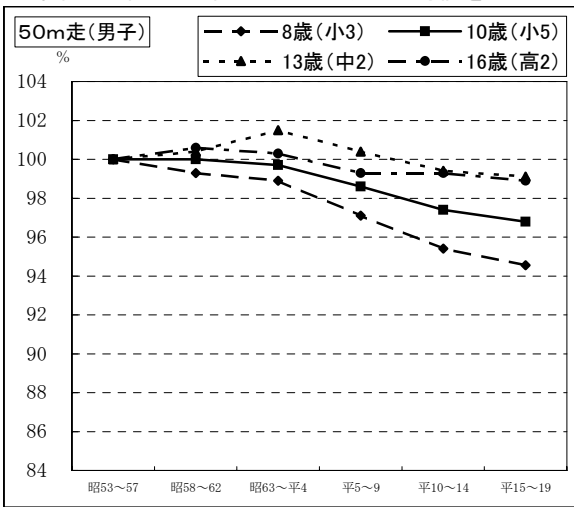


○「運動部への所属あり」「運動の頻度が多い」「運動の実施時間が長い」群は、そうでない群に比べて、体力運動能力得点平均が高い。このことから、運動する機会が多いほど、体力運動能力が高いと言える。

○「朝食あり」「テレビの視聴時間1時間未満」の群のそれぞれの体力運動能力得点平均が、そうでない群より高い学年が多い。このことから、生活習慣が体力運動能力に影響を及ぼしていると考えられることができる。

別紙2 「平均値の年次推移」

※昭和53年～57年(平成2～4)の平均値を100とした場合の5年間の平均値の割合を各種目別に示したもの。



○長年本県の課題とされてきた、ボール投げ、50m走、握力において、中・高等学校女子の50m走、ボール投げ、握力では、改善の兆しが伺える。しかしながら、ボール投げは、特にピーク時と比べ低位の状態であり、課題である。
○ボール投げ、握力において、小学生(特に5年生)の低下が著しい。

平成20年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査【概要】

【調査目的】

- 全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、国、教育委員会・学校が子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 学校が各児童生徒の体力や生活習慣、食習慣、運動習慣を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

【調査対象】

- 国・公・私立学校の以下の学年の全児童生徒を対象
 - ・ 小学校第5学年,特別支援学校小学部第5学年
 - ・ 中学校第2学年,中等教育学校第2学年,特別支援学校中学部第2学年

【調査内容】

- ① 実技調査 ※現在、各学校で行われている新体力テストと同種目

小学校・小学部第5学年

【8種目】

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

中学校・中学部第2学年

【8種目】

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走(20mシャトルラン)、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ
※持久走又は20mシャトルランを選択

- ② 質問紙調査

児童生徒に対する調査

児童生徒の生活習慣、食習慣、運動習慣に関するアンケート調査

(例) 睡眠時間、朝食摂取の有無、運動・スポーツの実施時間、運動部活動への加入状況等

学校に対する調査

体育的活動の取組状況や教育諸条件の整備状況に関する調査

(例) 運動会等の実施状況、体育専科教員の配置状況、運動部活動の状況、屋外運動場の状況

収集・分析

児童生徒の体力・運動能力と生活習慣、食習慣、運動習慣や、学校における体育的活動の取組状況等との相関関係を分析

【調査・分析結果の取扱い】

- 国全体、各都道府県、地域の規模別の調査結果を公表
- 都道府県、市町村、学校、児童生徒に各々の調査結果を提供
 - ・ 都道府県教育委員会は、域内の市町村及び学校の状況について個々の市町村名・学校名を明らかにした公表は行わないこととする。
 - ・ 市町村教育委員会は域内の学校の状況について個々の学校名を明らかにした公表は行わないこととする。
 - ・ 保護者等へ説明するため、市町村・学校は、各自の判断で自己の結果を公表することができる。

【今後の予定】

- ・ 5月中旬 : 各学校への最終的な参加意向調査
- ・ 4月～7月 : 各学校において調査の実施
- ・ 12月予定 : 結果の公表

資料